新春を迎えて

新型コロナウィルスと立ち向かいながら考える「詩２題」

長谷川 幸介（水戸西平和の会会長）

人類の「今」と3つの免疫

知人や友人が病に罹ったら、私たち人間は「**見舞う**」という行為をする
それは、病との戦いに立たされた者への支援と共感の証のようだ。
そうして、長い間、人間は病との戦い支える、「連帯する文化」を創り上げてきた
「ひとり」では生きられない人類の生存本能にちがいない

コロナウィルスとの戦いは**共進化**だという
多細胞生物とコロナウィルスとの戦いを続けながら、新しい段階へと共に進化し続ける
20億年を超えて、今、私たち人類は最前線の戦いを強いられている
私たちはどう進化すればいいのだろうか

人類は、ウィルス惑星に生きるべく「**免疫**」を作り上げてきた
身体を襲い続けるウィルスや細菌から身を守るべく積み重ねてきた生命予防装置
3種類の免疫細胞群は私たちが人類になる以前から克ち得てきた共進化の産物だ
この免疫システムを欺こうとするウィルスとの戦いが、私たちの体の中で展開されている

私たちはワクチンを生み出し、この戦いを乗り越えようとしている
科学という武器を使い、分断された社会を超えて戦い始めている
科学は、人類の厄災を前にして「**分断より連帯**」の道を歩みつつある
国家間の分断に対して、人類間の、生物間の連帯を歩み始めているのかもしれない

人類には「もう一つの免疫」があるのではないだろうか
一人では生きられない人類の「**心の免疫**」
つながらなければ…、つながらなければ…
生存本能の呪文が心の奥底から幾度となく響きわたる

それは、平和の響きのように、私たちの歴史の中に響き続けている
そう、「お見舞い」も挨拶も「**心の免疫の確認作業**」なのだ
社会は「人類の幸せ装置」、分断ではなくつながる装置
共進化の向うに、人類は社会に新しいつながりを創造できるのだろうか

この戦いから、人類は「**3つの免疫**」を強化することを学ぶに違いない
身体の免疫は、科学をつなぎ、人類の生存を確保するだろう
心の免疫は、社会という名の「幸せ装置」の分断を乗り越えるだろう
第3の免疫は地球の免疫力だ
地球の免疫力は生態系にほかならない
私たちは、過去の教訓を「今」に生かすだけでなく、
　　未来の願いを実現するための「今」を構成できる能力を持っている。
言葉を介したファンタジーする力、夢見る力だ

そこで、もう一度、コロナ禍の中で「心の免疫」について考えた

マスクの下で

医療現場も、介護現場も、いたるところでコロナウィルスと直面している暮らしがある
その先頭に、患者がいるのではないだろうか
好んで罹患したわけではない
１００％の予防が無理なら、
　　そう、だれもがウィルスに直面し、その危険の真っただ中にいるのだ

しかし、私は不運にして患者になった人を見舞う術を失っている
ともに病と立ち向かう仲間に贈る花一輪を探し続けている
心がコロナウィルスの恐怖に感染しているに違いない
自粛と言う名の「心の委縮」が続いている

だから、いつものように、お見舞いに花一輪を捧げたい
今この時も戦っている患者に、医療従事者とともに連帯という名の花一輪を見舞いたい
マスクの下の猜疑心を掻き消しながら、人間の弱さを乗り越えたい

何ができたかよりも、何ができなかったかを語り継ぐべきだという
だから、コロナ禍との戦いに連帯という優しさを紡ぎたい
だから、未来を生きる子どもたちに、花一輪のお見舞いを見せたい
人間の尊厳さと勇気を手渡したいのだ

驚き、恐怖、猜疑、そして差別、諦観…
有りアマル感情をマスクの下に仕込んでいる私たちよ
マスクの下の一番奥にしっかり手渡されてきた「連帯の遺伝子」を表すべきだ
コロナウィルスに対する「心の免疫」を作動させるべきだ
そうやって、人はこの地球でコロナウィルスと共存してきたのだから

「お見舞い」という文化に乗せて、花一輪を「患者」という仲間へ

長谷川 幸介（はせがわ こうすけ）氏
１９５０年函館市生まれ。　１９７５年茨城大学人文学部経済学科卒業。茨城大学講師。専門分野は、教育法学論、生涯学習論、地域社会論。現・茨城県生涯学習社会教育研究会会長
20年度より水戸西平和の会会長に就任。

「日本学術会議会員の任命拒否問題」学習会の報告

青木勇（あおき いさむ）**さん**　「平和の会しもつま」事務局長

11月29日午後2時より「ビアスパークしもつま」にて行いました。講師は県平和委員会事務局長の木村泉さん。出席者は講師を含めて総勢21名。本会員の出席者は10名。本会の主催するイベントに初めて参加するという方が2名いたこと、また原発県民投票の受任者としてこの1年間行動をともにした方々、及びその関係者が多数いたことも、大変うれしかった。

木村講師のお話、並びにお手製のテキストもわかりやすく、参加者アンケートには「この問題を体系的に、歴史をさかのぼって」「新聞を読んだだけでは得られない知識をえることができ」「全体像が見えた気がする」「今後利用できる」というようなことが書かれてあった。

立って話をしているのが青木さん

木村さんのテキストには「イタリア学会による声明」も併載されていて（新聞にも載ったが）、「学問の自由」について、非常に格調高く歴史的背景を説明しながら、鋭い政権批判を展開しているが、このテキストの延長として読むことでより理解が深まったのだと思う。

講演のあとの討議。「積極的な発言が続き」とアンケートに書いてあった。本会員の一人は「今までとかなり違った意見が出て楽しかった」と書いた。身内での予定調和的な流れの話し合いとはちょっと違った味が出ていたかな。

5時半からの反省会。8名で予約して15名も集まったので、お店からは「なんで?」という顔をされた。会員の拡大につなげたいと思う。

石岡市長へ要望書、市議会へ陳情書を提出

山口 由夫（やまぐち よしお）**さん**　「石岡平和の会」会長

●市長に平和行政に関する11項目の要望書を提出（11/11）

12月1日に文書回答あり、これを受けて市長との懇談会を12月15日に行いました。5名が参加、以下は主な論点です。

①東海第2原発の再稼働には市長として賛成出来ないと回答。
②「国や他市の動向を注視していきたい」との回答を指摘すると、「市の独自性を出していきたい」と市長。
③非核平和宣言都市の宣言文を正面玄関総合受付の上に掲示するよう強く要望。
④自衛隊適齢者名簿については従来通り閲覧に供している。
⑤日本非核宣言自治体協議会への加盟を要望。
⑥原発事故の汚染水海洋放出施策について市の姿勢を質す。

●市議会議長に核兵器禁止条約に政府の賛同・批准を求める意見書提出の陳情書

11月11日に提出、議会総務委員会で12月14日に審議されました。私共が出した意見書について「政党色が強い」との意見（意味不明）、また「すぐに結論を出すのは難しい」などで結果的に継続審議となりました。これを受け傍聴後、3月議会に向けて各委員に個別に働きかけていくことを検討、散会しました。

●その他の取り組み

菅首相の学術会議会員任命拒否に対しての抗議行動では、めいめいが手作りのプラカをもって計6回のスタンディングを駅頭で行いました。また、核兵器廃絶署名は、市役所本庁舎と八郷支所に署名用紙を置かせてもらい10月末日までに95筆が集まり、11月29日には駅前で署名行動を行いました。年末には新聞意見広告運動に取り組み、現在までに個人95口、団体2口の賛同を得ました。

谷島市長（中央奥）と懇談するメンバー

平和かわら版　No.894　2021 1. 5
【平和新聞茨城版】
発行 茨城県平和委員会
〒310-0912水戸市見川5-127-281　Tel/Fax.029-251-2806
お問合せは…　E-mail: ibahei@amber.plala.or.jp
情報&交流　茨城県平和委員会FaceBook
www.facebook.com/groups/449291196000108